

登録コード	UAA05500	開講年度	2026				
授業題目	英米言語文化論					担当教員	伊藤 尽
						副担当	飯岡 詩朗・SPREADBURY ASH LEIGH・田所 朱莉
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・5時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				⇔	思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を身につける。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を身につける。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				⇔	高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を身につける。	
	【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を身につける。	
	【人間文化学】人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を有する。				⇔	人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を身につける。	
(2)授業の概要	授業では特に以下の点を重視しながら、英米言語文化の諸領域に関する講義を行い、その諸問題に関する理解を深めるとともに、その後質疑応答とディスカッションを行う。 1 英語圏の言語文化の理解を深める。／2 特定のテキストに関して研究テーマを設定し、それが妥当かどうかを判断できる。／3 研究テーマのための資料及び資料分析の方法が妥当かどうかを判断できる。／4 研究テーマにかかわる先行研究の収集範囲が妥当かどうかを判断できる。／5 研究テーマについて考えをまとめ発表し議論できる。						
(3)授業計画	第1回：Introduction to Fairy Beliefs and the Medieval Church: A theory by Richard Firth Green 第2回：What is Believing in Fairies? 第3回：A literary comparison with Icelandic beliefs in Elves 第4回：Policing Vernacular Belief in Supernatural Beings in late Middle Ages 第5回：The Result of Policing Vernacular Belief 第6回：Are Fairies Incubi? 第7回：Female Fairies and Male Fairies 第8回：Christian Belief in Supernatural 第9回：The Issue of Christ and Changelings 第10回：Belief in Living in Fairyland 第11回：What is Fairyland in the First Place? 第12回：Postscript and Afterthought in Beliefs in Fairies 第13回：Any Differences between Fairies and Elves? 第14回：Further Discussions on Fairies and Faerie Queen 第15回：総括						
(4)成績評価の方法	授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。						
(5)成績評価の基準	授業内でのアクティビティ50%とレポート50%による。評価点は、テーマやテキストを正確に理解できたか、そのテーマやテキストから問題を発見できたかである。その度合いに応じて、合計100点で評価し、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価し、60点未満の場合は単位を与えない。						
(6)事前事後学習の内容	計画表にそって、前回の復習や確認をするとともに、当該回の課題を事前に行ってきてください。						
(7)履修上の注意	英語で学びます。時間数の2／3以上の出席がない方は評価の対象とはなりません。当然のことながらしっかり予習をした上で授業に参加してください。						
(8)質問、相談への対応	授業後あるいはオフィスアワーをお願いします。メールでアポを取っていただければ、それ以外の時間帯でもだいじょうぶです。						
【教科書】	Richard Firth Green, Elf Queens and Holy Friars: Fairy Beliefs and the Medieval Church. University of Pennsylvania Press, 2016. その他にプリントも配布する。						
【参考書】	Rathborne, Isabel Elisabeth. The meaning of Spenser's fairyland. New York : Columbia University Press, 1937. その他は授業中に適宜紹介する。						